

県立多治見病院 緩和ケアチーム通信

発行：県立多治見病院緩和ケアチーム 2020年9月号 vol.112

文責：山路佐知 編集：石川真里

チームメンバーよりひとこと



◆緩和ケア外来担当看護師 山路佐知◆

今年度から、緩和ケア外来を担当しています山路です。

緩和ケア外来には連携予約（他院からの紹介で受診される方）と院内から紹介で受診される方の2種類があります。院内で外来受診中の方や現在入院中の方には、外来受診日の調整のために、ご挨拶に伺います。

「今度〇〇先生からの紹介で、緩和ケア外来をすることになりました、担当の山路です。」たいていの患者さんは、「はい。お願いします」と言っただけですが、「緩和って何？」と聞いてこられる方も見えます。がんを告知された後の、もうがん治療はできないから、今後は緩和治療をと言われて紹介していただいています。どん底に落とされて、不安と恐怖の中、体調もすぐれない状況であれば、心配しかない外来診察です。

果たしてどんなイメージで受診されるのか？ご家族と一緒に来てくださいと、伝えています。患者・ご家族とともに、一緒になって今後について考えていただきたいのです。残された時間をそれぞれが、どう考えて、どうしたいのかをしっかりと聞きし、よりよい時間を共に過ごせるようなアドバイスができればと思います。

初対面の医師や看護師に対して、本音なんて話せるはずはありません。しかし一人で悩み苦しんでいては解決にはなりません。少しでも苦痛の手助けができればと思っています。

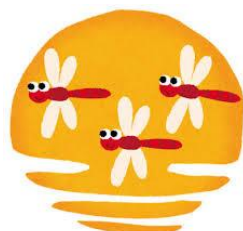
決して、苦しんで死ぬわけではありません。

外来を終わった後は、笑顔で帰って行かれます。「よくわかった。またお世話になるかもしれないからよろしく」外来は一度きりしかありません。一期一会の言葉のように、この出会いを大切にしたいと思っています。

その後どう過ごされたか、気になって確認もしています。自宅で家族とともに良い時間が過ごせました。とのお便りや在宅看護からの連絡は、出会えてよかったと思える振り返りの私の時間です。

多職種の連携を密にして、情報共有もしていきたいと思っています。

いろいろな情報を待っています。



令和2年度の緩和ケア勉強会について

令和2年度の緩和ケア勉強会は、当院の会議等開催制限が解除されてから再開する予定です。申し訳ありませんが、もうしばらくお待ちください。